

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 6 日

仕事の内容	プラネタリウム一般投影			
担当部署・課長名	社会教育 課	郷土博物館	係	課長名 高田匡章

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	1 - 4	-
【施策名】 市民文化の振興	総合計画書 (ページ)	41	

予算名	款 10 教育費	項 4 社会教育費	目 4 郷土博物館費	事業 2 郷土博物館事業
-----	----------	-----------	------------	--------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 市民	→	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 市の人口
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 宇宙・天文への関心を高める	→	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 観覧者数
	③ そのために何をしましたか。 ①毎年投影をしている東日本大震災をテーマにした「星空とともに」の第二章として新たに制作された「星よりも、遠くへ」をいち早く投影し、東京都内唯一の投影館となるなど、話題の作品を投影できるよう努めた。①番組を精査した。②プラネタリウムを利用した講座を開催し、プラネタリウムを身近に感じてもらうようにつとめた。③新聞折込、ホームページ等広報に努めた。	→	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) ①一般投影では春夏秋冬の季節ごとに行い、15番組を投影した。 ②星空観察会、宇宙の学校など講座は21回を行った。 ③ホームページは随時更新、新聞折込は2回行った。

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	86,044	85,857	85,698	
	成果指標	②の数値	人	13,120	11,291	12,123	
	目 標	②の目標値	人	12500	12370	13,210	
		目標設定の考え方	過去3年の平均12,009人×1.1=13210人				
活動指標	③の数値	①種類 ②回	①14、②10	①17、②17	①15、②21 ③2回		

3 経費	事業費(実績)		円	5,223,000	5,454,000	4,946,400	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	5,223,000	5,454,000	4,946,400	
		特定財源	円				
		(うち受益者負担)	円				
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.6	0.6	0.6	
		所要人数(再任用)	人				
職員人件費(再任用以外)		円	4,960,200	4,951,800	4,946,400		
職員人件費(再任用)	円						
事業費+人件費		円	10,183,200	10,405,800	9,892,800		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 平成6年度の開館以来、市民の宇宙・天文などへの知的好奇心に応えるため、またそれらへの興味関心を高めるため、季節ごとに内容を変えて投影を行っている。一方、学校教育との連携(学習投影)や幼児投影、特別投影なども行っている。学校団体などの投影は、内容を打ち合わせた上で、個々の希望に応じた投影を行っている。数値は一般投影のみの数字で学習投影などは含めていない。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 平成26年度に投影機器をリニューアルしてデジタル化し、新たな利用方法を試行錯誤の中で行っている。近隣のプラネタリウム施設もリニューアルが進んでいる。他のプラネタリウム施設の投影機とは違う投影機メガスターをうまくPRに利用する。

仕 事 の 内 容	プラネタリウム一般投影			
担当部署・課長名	社会教育	課	郷土博物館	係 課長名 高田匡章

5 市民等 の 意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について		
	番組制作委託料分の歳入を目標にしてほしい。		

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）		
	取り組んだ	取組手法	③事業協力（星空ボランティアによる関連イベントのほか、蔵敷公民館未来大学に協力した。） 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点 星空ボランティアの講座の充実		

7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題(2)」の内容 夏休みには子ども向けの番組（昨年度投影した妖怪ウォッチのようなもの）を投影しないのか問い合わせがあった。中高生がやってみた（中高生によるプラネタリウム解説）や「ひよこプラネタリウム（乳幼児とその保護者対象）」の評判が良かった。		
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。 ニーズに見合う番組を選定した（ダイナソーDX,かいけつゾロリのうちゅうたんけんだいさくせんなど）		
	(3)(2)を踏まえた今後の課題 評判のいい番組を選定したいが番組価格が高くなり、その結果、同じ番組（1年間の投影権）を長期間再投影することになる。なるべく多様な番組投影ができるよう心がける。 新たな広報活動の検討		

8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性（「7 課題(3)」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など） アンケート結果を参考に、チラシ類の送付先の検討 関連雑誌などへの情報提供と広報依頼 関連展示の開催		
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 広告料の発生		
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。		
成果	成果を向上させる。		経費 仕事の経費は維持する。